

# こんにちは。お世話様です。

こんにちは。お世話様です。お盆も過ぎ、だいぶ秋らしい陽気になってまいりました。朝夕はすっかり涼しくなり、秋の気配です。食欲の秋でもありますよね?(笑)。

さて、16回目のお話を始めたいと思います。今回は住宅の柱や梁を結んでいる「**金物**」について述べたいと思います。

元来、昔ながらの日本の木造建築は、金物を使わない建物でした。釘さえも使わず、「ほぞ」と呼ばれる凸状の木の加工による組合せによって、柱等を組合せていました。しかし木造建築自体の変化と、過去の大地震の経験から法律が改正され、特にここ10年は、金物が多数使われるようになりました。

いくつか例を挙げてみましょう。1つは「**ホールダウン金物**」です。この金物はアンカーボルトとは違う金物です。アンカーボルトは基礎と土台を結ぶ金物です。それに対し、ホールダウン金物は基礎と柱を結ぶ金物になってます。どのような効果があるかと言えば、地震の際のタテ揺れで、柱の「ホゾ」が土台から抜ける事を防ぐ為にあるのです。これは基礎だけでなく、通し柱を除く1階と2階の柱と、その上の梁を貫通して固定されています(写真1・2参照)。

2つ目として、以前からある、「**羽子板ボルト**」を挙げましょう。羽子板ボルトとは、お正月に遊ぶ、羽根つきの羽子板に形状が似てる事から名付けられました。羽子板ボルトは、1階・2階の桁・梁を結んでいる金物です。以前は太い釘を打ち込んで固定していましたが、現在はその部分をボルトで緊結に締め付け、固定しています(写真3参照)。

ホールダウン金物や羽子板ボルトの他によく使われてる金物で、床下に使われる「**鋼製束(こうせいづか)**」があります。これは以前、木材を使っていた束を、鋼製の束に替えて使用しているのです。メリットとして、木材の特性である、「木やせ」を防ぐ事ができます。木やせとは、木材中の「水分」が乾燥する事によって、木材が小さくなる事です。そうすると、床を支えている束が浮いてしまい、床がガタガタしてしまう恐れがあるのです。その現象を防ぐ為に、鋼製束は高さの調整ができ、適切な束の高さに固定する事ができます。尚、基礎がベタ基礎だと、より効果的です(写真4参照)。

これらの金物の他に、1件の住宅には10種類以上の金物を使用しています。これらの金物によって、地震に強い、丈夫な木造住宅を作り上げています。10年前の木造住宅から見ると、金物の量だけでも遥かに数多くの金物が使われています。是非、我社の住宅を、見学会等で御参考になさって下さい。



写真1



写真2



写真3



写真4

M-ONE HOME

集い(つどい)

(株)モリケン

TEL:(0268)68-2225 FAX:(0268)68-2196 森田携帯(090)2215-8356

URL:<http://www.moriken-motto.com>

E-mail:[mail-info@moriken-motto.com](mailto:mail-info@moriken-motto.com)